

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ヴェリテ富田林3新築工事	階数	地上14F
建設地	大阪府富田林市若松町西	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第2種住居地域・準	平均居住人員	241 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年3月20日
敷地面積	1,874 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社アモルフラス建築設計事務所 平野公章
建築面積	543 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月20日
延床面積	5,111 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社アモルフラス建築設計事務所 平野公章



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外の 79%

④上記+ 79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

音環境: 3.1, 温熱環境: 3.6, 光・視環境: 3.6, 空気質環境: 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性: 3.7, 耐用性: 2.9, 対応性: 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

生物環境: 2.0, まちなみ: 2.0, 地域性・: 3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.6

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

建物外皮の: 4.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源: 2.2, 非再生材料の: 3.4, 汚染物質: 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化: 3.8, 地域環境: 3.0, 周辺環境: 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
<p>良好な都市環境を形成し、賑わいのある街並みを維持するよう努める計画とした。また、高い外皮性能を計画し、省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。</p>	<p>特になし</p>
<p><b>Q1 室内環境</b> 外皮性能として、住居部分日本住宅性能表示5-1断熱など性能等級等級4を満たす計画とし省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内には適切に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努め、またLED照明など設備システムの効率化への取り組みをし省エネルギーに配慮した建物としている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出率を抑制し、地球温暖化への配慮をしている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)ヴェリテ富田林3新築工事
	建設地	大阪府富田林市若松町西
	用途/区分	集合住宅

【評価結果】	CASBEE 総合評価		A																
①	CO2削減		4																
②	みどり・ヒート アイランド対策		3																
③	建物の断熱性		4																
④	エネルギー削減		5																
⑤	自然エネルギー直接利用		○																
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>—</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—												
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—												

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.0	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		